

所属・職位	医学部医学科総合外科・地域連携学講座・教授	
氏名	白石 憲男 (Shiraiishi Norio)	
取得学位	医学博士、大分医科大学、1988年3月	
SDGs目標	   	

研究分野	消化器外科、内視鏡外科、地域外科医療学、外科教育学
研究キーワード	内視鏡外科腫瘍学、低侵襲手術、腹腔鏡下手術、機能温存胃切除術、多職種連携
研究内容	<p>高齢社会における良好な外科医療を確立するため、腫瘍学、外科侵襲学、外科治療学、社会学的立場から研究を進めている。</p> <p>●手術侵襲が癌の増殖・進展に及ぼす影響に関する基礎研究（内視鏡外科腫瘍学） 手術侵襲による癌の増殖・進展への影響を基礎研究にて明らかにしてきた。低侵襲手術である内視鏡外科腫瘍学の確立をめざしている。</p> <p>●消化管癌に対する内視鏡外科手術の手技の確立とその評価 内視鏡外科手術の癌治療としての手技の定型化と標準化をめざして、技術的および腫瘍学的な安全性を後ろ向き試験や多施設共同研究による無作為比較試験にて検討している。安全な内視鏡外科手術における合併症発生の回避と予後改善が目標である。</p> <p>●高齢患者に対する低侵襲治療の意義 臓器の予備機能が低く併存疾患の多い高齢患者に対する外科治療が増加している。そのため、高齢患者の耐術性評価や術式選択、さらなる低侵襲手術の開発を行っている。</p> <p>●消化器癌に対する機能温存手術の開発 外科的治療は罹患している臓器を手術により体外に排除することを基本としているため、術後のQOLを損なう宿命にある。術後遠隔期の患者QOLを向上させるため、神経温存手術や縮小手術などの開発や評価を進めている。特に胃上部早期胃癌に対する腹腔鏡下手術の新しい再建法を開発し、その評価を進めている。</p> <p>●地域外科医療と外科教育 地域医療構想や医師の働き方改革などの医療制度改革、医学教育制度改革および専門医制度改革が進むなか、多職種との連携システムの構築や外科医教育の改革が求められている。現状と課題を明らかにするため、疫学的調査研究を行っている。</p>
研究業績・アピールポイント	<p>●論文</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Shiraiishi N, Sato K, Adachi Y, et al. Multivariate prognostic study on large gastric cancer. J Surg Oncol 96(1): 14-18, 2007 2. Kitano S, Etoh T, Inomata M, Shiraiishi N. Laparoscopy-Assisted Distal Gastrectomy for Early Gastric Cancer: A Video Demonstration. Ann Surg Oncol 18, 3701, 2011. 3. Ueda Y, Shiraiishi N, Hirashita T, Inomata M. Training tools and methods for laparoscopic surgery Austin J Surg 5(8) online first, 2018. 4. Ueda Y, Fujishima H, Masuda T, Shiroshita H, Etoh T, Inomata M, Shiraiishi N. Clinical impact of clinicopathological characteristics of undifferentiated advanced gastric cancer in elderly patients. Gerontology and Geriatric Research 2(1) 3-7, 2020 <p>●著書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 白石憲男. 第8章内視鏡外科. 標準外科. 2021, 医学書院(東京) 2. 白石憲男, 上田貴威(編集). 高齢者に対する消化器外科のminimal requirements. 20021, メジカルビュー社(東京). 3. 白石憲男(担当編集). DS Now リンパ節郭清手技を究める[上部消化管編]. 2021, メジカルビュー社(東京)